

# 本当に成績が上がったこの方法

## 中間期末で成績を確実に上げる家庭学習



- ※ 無断複写複製は著作権の法律に触れます。
- ※ オークションなどの転売を禁じます。
- ※ 中学1年生でも読めるようにルビをうってあります。

**塾で実践して本当に効果があった勉強法が書いてあります。**

**そのまま真似してやってみてください。**

**実行すれば必ず成績が上がります。**

copyright by Excel

## ～ 保護者の方へ ～

### 本書の使い方

少し、長いファイルになりますが今後の学習効果への影響が大きい内容ですので、根気よく熟読お願いいたします

この教材は「中学生のパート」と「保護者様のパート」に分かれています。

#### 第1部 「中学生のパート」

読みやすさと「やってみよう」と思える量を考え、5科目の勉強法をコンパクトにまとめました。

優先順にSTEP1にしてまとめてあります。

勉強を始めるときはこのSTEP順に取り組んでください。

#### 第2部 「中学生のパート」 P 34 ～

高得点を目指すための学習法やお子さんに欲が出てきたとき、勉強についてもっと知りたいと思ったときの深い知識をまとめました。勉強の苦手な子は長い文章を読むのが好きではありません。一度に第1部、第2部を読む必要はありません。

#### 第3部 「中学生・保護者様のパート」 P 71 ～

親子で一緒に協力しながら取り組んでいただきたい部分や、勉強についてのコラムをまとめました。

#### 第4部 「保護者様のパート」 P 82 ～

お子さんをどのようにサポートすればよいか、など保護者さまの読み物です。不躱な物言いもあるかもしれませんが、どうぞご容赦ください。

メール相談に関して

## 第1部 中学生のきみへ

読みやすさと実行しやすさを考え、なるべく短くまとめました。

0、大切なルール P6

1、数学 STEP 1 ノートの使い方を今日から変える P8  
STEP 2 学校ワーク攻略 P10

2、英語 STEP 0 英語って何だ？ P15  
STEP 1 教科書の内容 P17  
STEP 2 学校ワーク攻略 P22

3、理社 STEP 0 こんな勉強してない？ P23  
STEP 1 全体を見る P24  
STEP 2 さあ覚えよう P25




4、国語 STEP 0 国語は勉強しにくい？ P28  
STEP 1 具体的勉強法 P29  
STEP 2 教科書にもどる P31

5、やることリストを活用しよう。

中2男子	2年1学期末	5科目	200点未満	
勉強開始	2学期中間		5科目 279点	一気にきた。
	2学期期末		5科目 362点	さらに80点アップ

この生徒は200点未満(500点満点)で塾に来ました。  
 どうなることかと思いましたが努力をして平均70までもってきました。

### きみも頑張れば上がる！

中3女子	2年学年末テスト	5科目	312点	「志望高校は無理」と断言される。
勉強開始	3年前期中間		395点	「頑張ってるね」と褒められた。
	前期期末		403点	念願の大台突破。
	後期中間		385点	ちょっと下げてしまいましたが、 志望高校が見えてきた。

この生徒は志望校の目標点が高く、ちょっと高望みたかのぞみでした。

しかし、勉強の無駄むだを省はぶいて効率こうりつが上がり、急激に成績が伸びました。

### きみも頑張れる！

中3女子			
2年前期中間	5科目	292点	
期末		316点	まだくすびっている
後期中間		364点	上昇気流に乗った。
期末		399点	さらに要領を得た。
3年前期中間		412点	完全に勉強方法が定着した。
期末		430点	自分の殻をやぶった。

1年間かけて130点以上伸ばしてきました。

成績は上がったり下がったりしますが、この生徒は上がり続けました。

**きみにも可能性がある！**

これを読んでいる君に言いたい。

おめでとう。

これを読んでいるということは、君は見込みがあります。

成績を上げる可能性を十分に秘めている。

少なくとも、なんとかしたいと思っている。

そのことこそが重要です。

上がるかもしれないと思っている。

それがすばらしい。

いや、本当に上がる。上がるしかない。上がること確定。

## 0、大切なルール

テスト前日に、あなたはどんな状態が理想ですか？想像してください。

どうですか？ イメージできましたか？

究極の姿は、**自信満々**でしかも**緊張**している状態です。

明日はテストで緊張するけれど、やることはやったので**充実感**もある。

とにかくここまで勉強したことは初めてで、**頑張**れたことが**嬉しい**。

実はテストが待ち遠しくてしょうがない。

いい点取れるかもしれないと期待しています。

そんな状態になってほしい。

では、どうすればそんな気持ちのよい夜を迎えられるでしょうか？

やれることを精一杯やった。

自分でやるべきことを絞って、やりきったときに充実感が得られます。

きみの場合はとりあえず70点に目標を<sup>さだ</sup>めます。

「もっといい点取りたい！」という気持ちはわかりますが、今は欲張らないでください。

では確実に70点を取るには？ やることを<sup>しぼ</sup>ります。

多くの問題集は、一つの単元(比例などのまとまり)につき、<sup>やさ</sup>しい問題から A B C の3段階の構成になっているはずで

基本・標準(練習)・発展(チャレンジ)の3段階です。

あなたが70点を目指すなら、発展はとばしてください。

(答えと考え方は目を通してください。)

欲は出さないでくださいね。

高校受験で志望校に合格した先輩方のアドバイスで、「**一冊の問題集を徹底的にやった**」というのを聞いたことがありますか？

70点を目指す人は、まず**基本・標準を徹底的にマスターする**のが先決です。

難しい問題を考えるのに時間を費<sup>つい</sup>やすのなら、基本・標準を繰り返すほうが効率的です。

**大切なルール：基本・標準を徹底的に繰り返す**

とにかくワークと同じような問題が出たら全部できるようになろう。  
そうすれば充実感と緊張感をもってテストが受けられるよ。

## 数学 STEP1 ノートの使い方を覚えよう！

ノートは計算したり図を書くための道具で、先生が黒板に書いたことをただ写すものではありません。

写すことに一生懸命になりすぎて、大切な説明を聞いてない、なんてことにならないようにしましょう。

ノートですが、ページを開いたときの左側だけ使えばいいです。

左側に先生の説明した公式や考え方を「メモ」します。

教科書の「問<sup>と</sup>」も左側に書いて解けばいいです。

つめて書かないでくださいね。この冊子のように一行<sup>あ</sup>空けてください。

空けたほうが読みやすいでしょ？

もったいない？ ノートは100円ショップで売っていますから気にしないで。

右側は空いていますね。

**教科書、ワークの「問」や「練習問題」で間違えた問題は右側のページにやり直します。**

そのためにわざわざ右ページを空けておくのです。

いいですか？

練習問題をやって間違えた問題を、その箇所に赤で答えを書いてしまう人がいます。

やめましょう。

**それは答えを写したのであって、解けるようになったものではありません。**



鉛筆で書いたその上に赤で重ねて答えを書いている人もいますね。

やめましょう。黒と赤は重ねて書くとすごく見にくくなります。

ノート

授業のメモ	
練習問題	解きなおし
練習問題	
練習問題	解きなおし

ここがガマンのしどころです。

ついつい、左側の答えに目が行ってしまいそうですが、ガマンしてください。

もしあなたが数学が苦手な40点だとしたら、ここでガマンできるようになれば60点ぐらいは取れるようになります。

だってそうですよ？

できない問題をそのままにして40点取れていたのです。

そこに「できなかった問題をできるようにする」を加えていくわけです。

**STEP1：間違えたら右ページに自分で解きなおしてみる。**

たったこれだけで点数が上がります！明日の学校の授業からやろうね！

## 数学 STEP2 学校ワークを攻略！

※ もし中学校でワークをもらっていない場合は市販問題集でも大丈夫です。

学校ワークの攻略です。

テスト範囲の確認からはじめましょう。

範囲がまだわからない場合は前回テスト範囲の次のページから始めればOK.

範囲がわかっていたら範囲の最初と最後にポストイット(ふせん)を貼<sup>は</sup>りましょう。

ワークを広げ、右側にノートを開いておきます。

**学校ワーク専用のノートを用意します。**

他の教科と混ぜないでね。

それから、基本問題・標準問題・発展問題のうち、

**基本と標準を完璧になるまで繰り返す、でしたね？**

A・B・Cに分かれていたら、AとBに集中しましょう。

ワークはこんな感じだと思います↓

( 例: 中1比例 )

- ①  $y$ は $x$ に比例していて、 $x=3$ のとき、 $y=6$ です。 $y$ を $x$ の式で表しなさい。
- ②  $y$ は $x$ に比例していて、 $x=-2$  のとき、 $y=12$  です。 $x=3$ のときの $y$ の値を求めなさい。
- ③  $y$ は $x$ に比例していて、 $x=-4$ のとき、 $y=2$ です。 $y=3$ のときの $x$ の値を求めなさい。
- ④ 右の図のア～エのグラフの式を求めなさい。

1回目は、問題をノートに解いていきます。

そのときに、必ず途中の式を書いてください。

①だと、 $6 \div 3 = 2$     $a = 2$     $y = 2x$

または  $y = ax$     $6 = 3a$     $a = 2$     $y = 2x$

というように「どうやって解いたのか？」を書いておきます。

①  $y = 2x$       ②  $y = -18$

こんなふうに答えだけ書く人がいますが、きまって成績がよくありません。

なぜだかわかりますか？

**数学は「解き方・考え方」を覚えて使う科目だからです。**

**また、頭の中で考えた解き方や考え方をノートに書いていくことで、解き方と考え方がはっきりとわかり、しかも頭に残ります。**

ノートの左ページに、途中の式を書きながら問題を解きます。

1ページ終わったら○付けを始めます。

ノートに○付けです。

○ と×がついたと思います。

ここが大切ですよ。

間違えた問題、わからなかった問題の □(チェックボックス) に☑を入れます。

**☑の問題は、問題を見ながら解説を読んでください。**

解説を読まない人が多いですが、解説が大切ですよ。

**数学は解き方・考え方を理解し、覚える科目です。**

一回でわからなければ、3回読みます。

理解できた場合はOKです。

解説が理解できない場合は問題に ☆ をつけておきます。

☆は「質問マーク」です。学校の先生や友達に質問しましょう。

きみの場合は先生より、友達のほうが聞きやすいかな？

☑の問題はノート右側ページの解きなおしてみよう。

できたら☑を○で囲みましょう。

そうやって、できなかった問題☑や☆を○にしていけばいいのです。

※学校の先生に質問したくてもできない、質問しにくい人も多いと思います。  
上手な質問のコツは第2部に書いてありますから読んでね。

**数学 STEP2 学校ワークに☑を入れながらすすめよう。**  
**☑を少しずつ○にしていこう**

基本・標準が全部○になることが目標。次のテストでやろうね。  
ワークは3回やれば、かなりできるようになるぞ。

### 数学勉強のまとめ

**STEP1 ノートの使い方を変えよう。**  
**STEP2 ☑が○になるまでワークを繰り返そう**  
**質問は☆印だよ。**

## STEP2 時間がない君へ

部活動やスポーツクラブ、他の習い事で忙しい君は、1回目からワークに書き込んでください。

☑がはいった問題はノートに解きなおします。

時間がないとはいえ、**3回はくりかえすようにします。**

2回、3回と繰り返すのは面倒くさく感じるかもしれませんが、やってみると

1回目より2回目が、2回目より3回目のほうが短い時間で済みます。

しかも、○がどんどん増えていくので良いことばかりです。

**ワークは繰り返すほど楽になります。**

☆ さらに詳しく知りたいときは第2部を読んでくださいね。

## 英語 STEP 0 英語って何だ？

英語が好きじゃない人、多いですね。

まずは、英語ってどんなものか考えてみましょう。

英語は「言葉」です。

北アメリカ・イギリス・オーストラリア・カナダなどで話されている言葉です。

アメリカ人、オーストラリア人は英語を使って会話をしたり、仕事をしたり、コミュニケーションをとっています。

さて、みなさんは日本人ですから日本語を読んだり、聞いたり、書いたりできますね。

どうやってそれを覚えたのでしょうか？

なんとなく、自然にできるようになりました。

では、どうやって自然にできるようになったのでしょうか。

何回も何回も聞いているうちに**言葉や文を暗記した**のです。

覚えよう！暗記しよう！という意思はなかつたと思いますが、覚えたのです。

**英語も同じ、「言葉」のひとつですから覚えてしまう必要があります。**

全部とはいませんが、中1の冬休みぐらいまでの内容は教科書の暗記が理想です。

できない？

やってみてください。

できますよ。

だって、僕の塾の生徒はできるから。

小学校で英語を習っていたわけではありませんよ。

田舎ですから小学校から塾へ行っている子は少ないのです(笑)

でも、できる。覚え方にもコツがあるんです。

ただ意味もわからずに暗記するのは苦痛くつうでしかありません。

英語のルールを知り、理屈りくつをわかったうえで覚えます。

よく、「英語は単語さえ知っていればなんとかなる」と聞きますが、間違いです。

私の友人に英語教師がいますが(もちろんペラペラです)、

「文法も知らずに会話なんかできっこない！」と言い切っています。

☆ 文法については第2部に書いてありますから時間のあるときに読んでくださいね。



## 英語 STEP 1 まずは教科書内容！

英語は言葉です。

だから、読める、意味がわかる、書ける。この3つのマスターを目標にしましょう。

### STEP1-1 教科書を声にだして読んでみます。

英語が全然わからない人は、英語をスラスラ読めないので困っているかもしれません。

そんなときは小学生向けの英和辞典を買ってもらってください。

小学生向けには英語のカタカナ読みが書いてあるからです。

辞書が面倒な人は、教科書ガイドや要点ぶんこを買ってもらいましょう。

君が気に入ったものがあればそれを使ってください。



教科書ガイド



要点ぶんこ

声に出して読むのがポイントです。

だま黙って読むよりも声に出すほうが脳はよく働き、覚えやすいからです。

## STEP1-2 教科書本文の意味理解

学校の授業で先生が本文の意味(日本語訳<sup>やく</sup>)言ってくれていますね？

もし先生が日本語訳を言ってくれないなら、教科書ガイドを見てください。

日本語訳は教科書ガイドに書いてあることを写すのではなく、できるだけこんなふうに書いてみてください。

(例文) I went / to the park / with Ken / yesterday.

私 行った 公園へ ケンと 昨日

私は昨日ケンと公園へ行った。

英語は言葉の順番が決まっています。

その順番を身につけてもらうためにも、英文を区切って日本語にしてから全体をつなげてみます。

どこで区切るか？

<sup>てきとう</sup>  
適当でいいです。

君が「ここかな？」と思ったところで区切れればいいです。

慣れてくると、自分で区切りがわかるようになります。

さて、訳すときに覚えておくと便利なコツを一つだけ覚えてください。

疑問文や一部の例外はありますが、英語は並び方の順番が決まっています。

**最初がS(主語) 次がV(動詞)**

主語は日本語の「～は、～が」です。 (例) I You Ken My sister

私は あなたは ケンは 私の姉は

動詞は「～する、～である、いる」 (例) go play like swim visit

行く する 好む 泳ぐ 訪問する

**最初がS(主語) 次がV(動詞)**

5回言って覚えてしまってください。

文がどれだけ長く複雑になってもこの順番はかわりません。

(例1) I <sup>ラン</sup>run in the park.

私は 走る

(例2) Yuki <sup>スピークス</sup>speaks English very well.

ユキは 話す

(例3) Mr. Tanaka <sup>ティーチ</sup>teaches us math every day.

田中先生は 教える

(例4) He is a junior high school student.

彼は ～である

(例5) My grandmother is in Tokyo now.

私の祖母は いる

最初がS(～は) 次がV(～する、いる、～である)になっていますね？

英文を訳すときは最初に主語、次に動詞だと意識します。

これだけで英語が今までと違って見えてくるはずです。

### STEP1-3 書いて覚える

英語のテストはリスニングが30点以下で、あとの70点は筆記のテストです。

英語を正しく書けるかどうか？の部分が70点です。

ですから音読と日本語訳は教科書ガイドの力を借りて早く終わらせ、書く練習に時間を使いましょう。

教科書の基本文(教科書の下の方に書いてある太文字の英文)と単語・熟語を復習しておきましょう。

#### ① 基本文

基本文は「教科書ガイド」に解説もついていますから、それを見ながら丸暗記まるあんきします。

(例:現在進行形) ケンは今料理をしているところです。

Ken is cooking now.

疑問文 ケンは今料理をしているところですか？

Is Ken cooking now ?

答え方 はい、しています。 いいえ、していません。

Yes , he is.                      No, he isn' t.

教科書ガイドに説明は文法用語が出てきますが、主語と動詞だけわかればOK。

日本語訳を見て英文を書けるようにノートに練習しましょう。

## ② 単語

単語は教科書の<sup>ひだりはし</sup>左端、<sup>みぎはし</sup>右端にかいてあるもののうち、**太字**のものを覚えます。

また、熟語( a lot of =たくさんの など一つのまとまり )を覚えます。

「要点ぶんこ」を利用してもいいですし、これまでに学校でした文や単語のテストがあれば、それをもう一度やり直します。

もし学校で単語テストがない場合は、書店で気に入ったものを買えばいいです。

英単語→日本語、日本語→英単語はすべてできるようにします。

現在	彼は今日忙しい。 He is busy today.	彼は	彼は今日忙しい。
過去	彼はこの前の日曜日忙しかった。 He was busy last Sunday.	過去	彼はこの前の日曜日忙しかった。
疑問	彼はこの前の日曜日忙しかったですか？ Was he busy last Sunday ?	疑問	彼はこの前の日曜日忙しかった
答え方	はい、(彼は) 忙しかった。 いいえ、忙しく Yes, he was. No, he wasn't.	答え方	はい、(彼は) 忙しかった。
否定	彼はこの前の日曜日忙しくなかった。 He wasn't busy last Sunday.	否定	彼はこの前の日曜日忙しくな
それぞれの	each	それぞれの	
うれしい	glad	うれしい	
重要な	important	重要な	
手紙	letter	手紙	
tournament	トーナメント	tournament	
お互い	each other	お互い	

塾の基本文・単語テスト

単語や熟語は書いて覚えます。

☆ 単語を覚えるコツは第2部に書いてあります。

## 英語 STEP2 学校ワークで練習

基本文、太字単語、熟語を覚えられたら学校ワークをします。

基本文や太字単語と熟語は覚えてありますから、今までよりはラクにワークを終えることができると思います。

教科書などは見ないで問題を解いていきます。

数学と同じく、丸付けをしたら答えの「解説」をじっくり読みましょう。

解説は「なぜその答えになるか？」が書いてありますから、とても大切です。

×になった単語、熟語はノートや紙に練習して覚えます。

単語や熟語を「何回練習すればいいですか？」と聞いてくる人がいますが、

回数は決まっていません。

本番のテストで書ければいいのです。覚えたら練習終わりです。

### 英語勉強のまとめ

#### STEP1. 本文をスラスラ読める

英文の日本語訳がわかる

単語・熟語練習・暗記

#### STEP2. 学校ワークで練習

## 理科・社会 STEP 0 こんな勉強してない？

理科の勉強というと、実験や図をまとめ始める人がいます。

社会なら、年表や地図を書き出す人がいます。

まとめるのは良いことだと思いますが、まとめて終わりになっていませんか？

まとめる目的は何ですか？

冷たいようですが、ノートにきれいに書けば点が取れるわけではありません。

まとめる作業は、学校でやりませんでしたか？

また最初からまとめ直す必要はありません。

気をつけること 1 カラーペンを何色も使わない。

しかく視覚は、色が多いと「色」に意識(気持ち)がいきます。

書いてある内容ではなく、色を見てしまうのです。

3色までにしておきましょう。

気をつけること 2 まとめて気持ちよくなるらないこと。

しつこいようですが、「きれいに書けた！」と満足しないでください。

ノートにまとめて、勉強したつもりにならないこと

## 理科・社会 STEP 1 全体を見る

理科と社会は暗記の部分が多い科目です。

多くのことを暗記するには、最初に全体像<sup>ぜんたいぞう</sup>が見えているほうが暗記しやすくなります。

最初から細かいことを一つひとつ覚えるよりも、大雑把<sup>おおざっぱ</sup>に全体をながめ、

それからじっくり覚える作業に入ります。そのほうが覚えられます。

教科書のテスト範囲<sup>はんい</sup>の最初と最後のページにポストイット(ふせん)<sup>は</sup>を貼ります。

範囲を、自分だけに聞こえる大きさの声を出して読みます。

わからないことがあってもかまわず、立ち止まらず、考えず、読みます。

3回読みます。

そうすると、だいたいどんなことが書いてあったかわかります。

学校でも習っているはずですから、なんとなく知っている内容です。

**太字**で書いてあった言葉は、少しだけでも頭に残っているはずですよ。

> 今回のテスト範囲は電流だ。

> 電気の記号がいくつもあったな。

> 回路という言葉が何回も出ていたな。直列とか並列だった？

> 計算の式がいくつもあったな。オームの法則。

> 電流がアンペアで、電圧がボルトで……もうひとつは何だっけ？

こんな程度でかまいません。



## 理科・社会 STEP2 さあ 覚えよう！

テスト範囲の大きな流れがわかったら、学校ワークを始めます。

ワークに〈要点のまとめ〉があれば、今度はじっくり読みます。

読み終わったら、〈要点のまとめ〉を隠してノートに問題をやってみます。

全部で3回解くので、1回目はノートに解きます。

必ず何も見ないで解いてくださいね？

〈要点のまとめ〉や教科書を見たい気持ちはわかりますが、見ないでください。

1ページ終わったら、解答を見て丸をつけます。

何も見ないでやったので×が多いと思います。

それでもいいです。

解説を読んでみましょう。要点のまとめや教科書で答えを確認しましょう。

間違えた問題、わからなかった問題はワークに☑をいれます。

1回目は☑だらけかもしれませんが、気にしないでください。

1回目は誰でも☑がたくさんあるのです。

かまわず次のページの問題をノートにやってみます。

基本問題、標準問題を続けてやりましょう。

どこまで？ 次の〈要点のまとめ〉のページまで。発展問題はとばしていいですよ。

最初の〈要点のまとめ〉部分の基本問題、練習問題まで終えたとします。

ワークに☑がたくさんついたと思います。

ほとんど○がついていない？大丈夫です。

30点しか取れてない。大丈夫です。

これで一番つらく大切な第一段階を終えました。

**これで君が覚えたことと、覚えていないことの区別ができました。**

☑がついた問題が、君が覚えていない問題ですね？

もう一回解いて、☑を○にしていけばよいのです。

もう1度、同じ問題を解いてみましょう。

1回目と同じく何も見ないで解いていきます。

2回目ですから1回目より早くできます。

本当に？

本当です。やってみればわかります。

☑の問題で2回目を終えて正解したものは☑を○で囲みましょう。

2回目も×だったら☒です。

同じ問題を全部で3回やります。

3回目はワークに直接書き込みます。

☑と☒がすべて○で囲まれたら終了！

## 理科・社会の学習法 まとめ

### STEP1 テスト範囲の教科書を3回読む。

1回目は時間がかかるかもしれないけれど  
2回目3回目は早く読めるから頑張っ！

### STEP2 ワーク1回目

できた問題とできなかった問題の区別

#### ワーク2回目

☑の問題をひとつずつ○に変えよう！

#### ワーク3回目

問題を解くスピードも上がってくるぞ！  
☑と☒を○に変えよう！自信もつくよ。  
質問は☆印だ。

- ★ ワーク2回目でひとつでも☑が○になったら向上した証拠です。  
自分をほめよう。
- ★ 塾の生徒にもワークを3回やってもらっています。  
3回やればだいたい身につくし、ほとんどの中学生は70点以上取れるぞ！
- ★ 解説を読んでもわからない問題は☆（質問マーク）だったね？  
相手に嫌がられずに質問する方法は第2部に書いてあるよ。

## 国語 STEP 0 国語は勉強しにくい？

国語って勉強しにくいですね？

自分の国の言葉なのにね、何をしたいかわからない。

テスト勉強は漢字練習をして終わりの人も多いと思います。

なぜ勉強しにくいかわかりますか？

他の教科と国語の違いを考えてみるとわかると思います。

**国語が勉強しにくいのは、国語は何が大切かわからないからです。**

数学のように公式や解き方が決まっているわけではなく、

理科や社会や英語のように大事なことが太字で書いてあるのでもない。

だから何を覚えてよいかわかりにくい……。

どう勉強すればよいかわからない……。

そこで、次のページでは「国語の大事な部分を探っていくこと」に集中した勉強法を紹介します。

## 国語 STEP 1 具体的勉強法

最初に書店で買い物です。

教科書ガイドを買ってもらってください。(ちょっと高いですが買う価値<sup>かち</sup>はあります。)



何種類もありますから、自分の教科書にあったものを買ってくださいね。

大型書店にありますが、ない場合は「学参ドットコム」やアマゾンなどでも買えます。

学校のノートには、先生が黒板に書いたことを写してありますね？

先生が黒板に書かなくても何回も繰り返し話したことや、声を大にして言ったこともノートに書いてあるとよいです。

その写した部分が「大事な部分」なのです。

できれば、あなたの国語の先生だけでなく、他のクラスの国語の先生のノートも

友達に写させてもらうのがベストです。

**その大事な部分を教科書に書き込みます。**

そう、教科書に書いてしまいます。

そのページのその部分、その文章、その行で先生が「大事だぞ」と話したことを

書き込んでいきます。

ノートにまとめたりしないでくださいね。

書き込んでください。

次に教科書ガイドを開きます。

教科書ガイドにも同じように〈要点〉や〈ポイント〉が書いてありますね？

先生が説明したことと同じことも書いてあるかもしれません。

**教科書ガイドの〈要点〉や〈ポイント〉をまた教科書に書き込んでしまいます。**

表現技法の「<sup>ぎほう</sup>倒置」だとか「<sup>きしょうてんけつ</sup>起承転結」「<sup>ごごんぜっく</sup>五言絶句」「<sup>ぎじん</sup>擬人法」など国語の用語はもちろんこの場面の健太の心情は「～」、作者の言いたいことは「～」で、など教科書のそのページに書き込みます。

詩や俳句、短歌、漢文の<sup>げんだいごやく</sup>現代語訳や作者の心情なども書き込んでしまいます。

<sup>せま</sup>狭くて書ききれない？

そんなときは仕方がない、ポストイット(ふせん)に要点を書いてそのページに貼ります。

全部覚えろとはいいいませんが、「ここ大事だぞ！」と意識するようにします。

完全でなくても、この文章ではどこに気をつけて読めばいいのか見えてくるはずです。

ワークも同じように活用します。

ワークの問題を解きます。

解いたら、その「問い」と「答え」を教科書に書き込むのです。

ワークの問題も「この部分はこんなことを理解してほしい」と望まれていることが

「問い」になっているからです。

## 国語 STEP 2 もう一度教科書を読む

教科書が書き込みで真っ黒になったと思います。

それでいいのです。

では、自分で書き込みをした教科書をもう一度読んでみましょう。

書き込んだことにも目を通して読みます。

そこまでしたら、あとは漢字練習に集中しましょう。

国語の用語である「とうちほう倒置法」「ぎじんほう擬人法」「たいげんども体言止め」「きしょうてんけつ起承転結」「かかりむすび係り結び」

短歌や俳句では「時代名」「作者名」なども漢字で書けるように練習しておきます。

### 国語学習法のまとめ

#### STEP1 授業ノート・ガイドの要点を教科書に書く

ワークの問題を解き、ポストイットを貼るなどして  
できるだけ覚えるようにする

#### STEP2 ポイントを書いた教科書をゆっくり読む

最後に漢字の練習

実力テストのたいしよ対処、どっかいいりよく読解力をつける方法は第2部に書きました。

時間があるときに読んでみて。

アフターセッション

数学	英語	国語	理科	社会	合計

**できなかった問題を正直にやり直せるかどうか、それで成績が決まる。**

数学

チェック

1	教科書・ワークの試験範囲を確認した。	
2	何も見ないで学校ワークを終えた。(×が多くても気にしない)	
3	解説を読んでもわからない問題は質問して解決した。	
4	×になった問題をノートにやりなおして、全部できるようにした。	
5	学校のプリントやった。	
6	学校のプリントで間違えた問題とわからなかった問題をノートにやり直した。	
7	塾のテスト前課題をやった。	
8	間違えた問題とわからなかった問題をノートにやり直して全部できるようにした	

英語

1	教科書・ワークの試験範囲を確認した。	
2	教科書の読みと和訳ができるようになった。	
3	学校の単語・基本文のテストをやり直してみた。	
4	何も見ないで、できなかった問題に×をしながら学校ワークを終えた。	
5	×になった問題をノートにやりなおして、全部覚えた。	
6	学校のプリントをやった。	
7	解説を読んでもわからない問題は質問して解決した。	

このページはコピーして何度でも使ってください。



理科

1	教科書・ワークの試験範囲を確認した。	
2	範囲の教科書を3回読んだ。	
3	何も見ないで、学校ワークを終えた。(×が多くても気にしない)	
4	解説を読んでもわからない問題は質問して解決した。	
5	×も○もすべての問題をノートに繰り返し、全部できるようにした。	
6	学校のプリントをやった。	
7	学校のプリントの間違った問題はノートにやり直した。	

社会

1	教科書・ワークの試験範囲を確認した。	
2	範囲の教科書を3回読んだ。	
3	何も見ないで、学校ワークを終えた。(×が多くても気にしない)	
4	ノートに繰り返し、全部覚えた。	
5	学校のプリントをやった。	
6	学校のプリントの間違った問題はノートにやり直し、全部覚えた。	

国語

1	教科書・ワークの試験範囲を確認した。	
2	範囲の教科書を3回読んだ。	
3	学校ワークを終えた。	
4	教科書ガイド、ノート、ワークのポイントを教科書に書いた。	
5	学校のプリントをやった。	
6	4を意識して教科書を読んだ。	
7	漢字練習をした。	

## 第2部 もっと知りたいきみへ

第2部では、もっと深い知識を持ちたい人、もっと点数が取りたい人へむけた内容を書きました。発展内容です。

たくさんの方が書いてあるので、一度に読むと疲れるかもしれません。

「こんなにたくさん〜？」とやる気をなくしてしまうかもしれません。

きみが70点を目指しているなら、まず第1部の学習法を徹底してくださいね。

第2部を読むのは、そのあとでかまいません。

自信がつくまでは基本・標準を繰り返す、でしたね？

1、学校授業の受け方 P 35

2、質問するのが恥ずかしいきみへ P 38

3、数学：グラフと図形 P 39

4、英語：英語の心臓部＝文型 P 43

単語の覚え方 P 57

単語カードを作るなら P 59

英語長文の読み方 P 61

5、理社：参考書の選び方 P 63

6、国語：読解力をつけるには P 65

作文と小論の練習法 P 68

## 1、学校授業の受け方

塾へ行っていなくても勉強ができる子はいるものですね。

40人クラスなら、2人ほどいます。

あの子は頭がいいから・・・？ 生まれつき？

どうやって頭がよくなったのでしょうか？

何もしてないように見えるのに成績が良い。

それほど勉強しているようには見えない。

ふつうにテレビを見ているようだし、マンガやゲームのことも知っている。

<sup>ぶあつ</sup>分厚いメガネをかけて、毎日深夜まで勉強しているわけでもない。

部活動もやっている。

一日24時間は変わらないはず。

とても<sup>ようりょう</sup>要領がいいように見える。

きみと彼らのどこが違うのでしょうか？

生まれ持ったものは、同じです。

どこが違う？

授業の受け方が違うのです。

質問しますね？

あなたは何のために授業を受けているのですか？

…

…

…

質問を変えますね。

あなたは授業中、一生懸命何をしていますか？

…

…

どうでしょう？

ノートをとることに必死になっていませんか？

そうなら今日限りでやめましょう。

いえ、ノートはとってください。

でも、ノートをとるよりも優先すべきことがあります。

何ですか？

そうです。

## 先生の話聞いて、理解することです。

授業は、先生の話聞く場所です。

ノートをとることは必要ですが、先生が説明しているのにノートに目を向けていませんか？

成績の良い子は、ノートをきちんととるよりも、先生の話じっくり聞いています。

そして、その場で理解してしまうのです。

ですから、テスト前になって一から勉強しなおす必要がないのです。

彼らがやるのは、授業内容を思い出して復習すること。

彼らは「ノートをとったのはいいけれど、内容がさっぱりわからない。頭に入っていない」ということはありません。

よって、テスト勉強も短時間でとても効率こうりつがいいのです。

「あの子は頭がいい」と思えるのも当然ですね。

ノートは「メモ」と考えて、授業の中心と考えない。

授業はメモしながら先生の話理解する時間。

これは明日からでも始められるよね？

## 2 質問するのが恥ずかしいきみへ

「こんなこと質問していいんだろうか？」とっていませんか？

それに、先生に質問するのにわざわざ職員室までいくのは面倒。

きみの場合は、学校の先生より友達のほうが聞きやすいですね？

友達に質問するにしても上手な質問の仕方がありますから覚えましょう。

質問するときに、問題を指差して「これがわかりません！」とっていませんか？

これを「まる投げ」と言います。

わからないことを相手に「全部まるごと投げつける」やりかたです。

長い説明が必要な問題をまる投げされると、質問された人は嫌なものです。

自分の時間を取られるわけですからね。

どうすればいいか。

最初に解答の解説を開きます。

(例： 中2数学 証明)

<p>○ <math>\triangle ABC</math>と<math>\triangle DEF</math>において</p> <p>○ <math>AB=DF</math>(仮定)・・・①</p> <p>○ <math>BC=EF</math>(共通)・・・②</p> <p>× <math>\angle B=\angle E=60^\circ</math>・・・③</p> <p>① ② ③より 二辺とその間の角がそれぞれ等しいので、 <math>\triangle ABC \equiv \triangle DEF</math> よって、<math>AC=DF</math></p>
---

**解説を読み、わかる部分に○、わからない部分に×をつけておきます。**

上の例の場合は、 $\angle B=\angle E=60^\circ$  がわからないのです。

どうして同じになるのか？60はどこから出てくるか？がわからないのです。

質問するときは、「この $60^\circ$  のところがわからないので教えてください」と質問します。

この方が、相手の人が答えやすいのです。

最初から全部説明しなくていいので、気楽に答えてくれます。

**わからない部分をしばって質問する**

### 3、グラフ・図形

少し専門的な話になりますが、数学の場合で考えたり覚えたりするときに重要なのが「視覚化」です。

文章で書いてあることがわかりづらいときに、絵に描いてみる、図に表してみるということです。

例をあげてみます。

ケンちゃんは10個のおはじきを持っていて、4個を友達にあげました。

残ったおはじきを兄と等しくわけることにしました。

いま、ケンちゃんは何個おはじきを持っているでしょう。

一つの式から、答えを求めなさい。

考えてみてください。



(式)  $(10-4) \div 2$

答 3個

パッと式を考えつきましたか？

中学生の問題だと、もっとややこしいですね。

そこで問題を図に書きながら考えます。

最初のおはじき	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
4個あげた	○ ○ ○ ○ ○ ○
二人で分ける	○ ○ ○ / ○ ○ ○

図にするとわかりやすくなります。見えますから。

グラフや図形問題は、問題をすべて写すようにします。

中1の方程式文章問題なども図を描いているうちに「わかった！」なんてこともよくあるのです。

(フリーハンドでもいいです。時間がもったいない！)

また、自分で図やグラフを書いてみることで、そのイメージが頭の中に残りやすくなります。

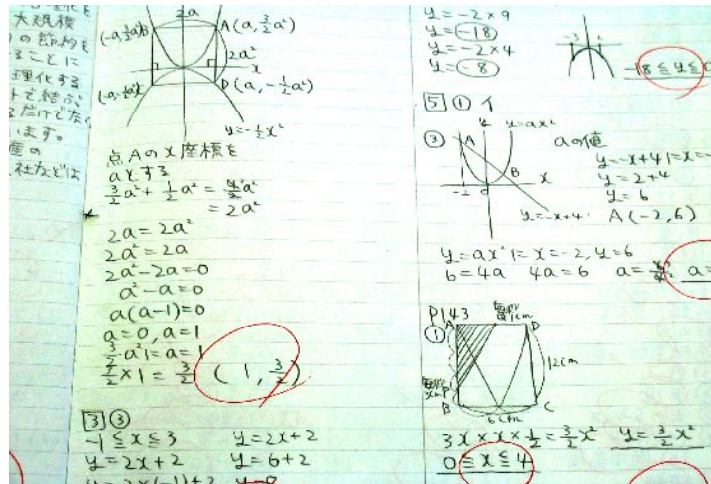
数学は、上の ○ ○ ○ / ○ ○ ○ をイメージできるかどうか大切です。

わかる部分だけでも、とにかく図に書いてみましょう。

**フリーハンドでいいから、図やグラフを書こう。**

フリーハンド……定規を使わないこと

生徒の「反復ノート」(3年 二次関数)



間違えた問題をやりなおす反復ノートです。

他の生徒は自分のノートに好きな名前をつけています。

「燃える数学ノート」

「目指せ100点ノート」

「頑張るノート」

「わたしの理科ちゃん」

「気合ノート」

ネーミングで遊んでいます。勉強は誰でもシンドイ。少しでも楽しいものにしよう。

## 4、英語の心臓部 = 文型の理解

ここでは英語の文法を説明します。

これは英文を覚えるうえで大切なルールです。

本当は高校1年生で習うのですが、今から知っておくと得ですよ。

英語の心臓部ですから知っている人と知らない人では、天国と地獄ほどの差がつか  
ます。

しかも、一生<sup>いっしょう</sup>役立つ知識ですからね！

いきなりですが、問題です。

### 英単語の並び方にはルールがある

問題 次の単語を並び替えて意味がわかる日本語にきなさい。

ぼくは 勉強した 塾で 昨日 英語を

あなたの答え

---

次のページに解答があります。

解答1 ぼくは 勉強した 塾で 昨日 英語を

解答2 英語を 勉強した ぼくは 塾で 昨日

解答3 勉強した 塾で 昨日 英語を ぼくは

解答4 塾で 昨日 英語を ぼくは 勉強した

解答5 昨日 英語を ぼくは 勉強した 塾で

解答は120通りあります……。

私達が使っている日本語は並べる順番がめちゃくちゃでも意味は通じるのです。

しかし、これが英語にも当てはまるかというと、NOです。

前ページの問題を英語バージョンでやってみましょう。

問題 次の単語を並べ替え、意味のわかる英文にきなさい。

studied I at Juku English yesterday  
(勉強した) (私は) (塾で) (英語を) (昨日)

正解

I studied English at Juku yesterday

---

正解は一つしかありません。

英語は並び方にルールがあるからです。

英語は並び方が決まっているので、それだけ覚えればいいのです。

並び方がわかれば、あとは単語をあてはめていくだけです。

学校のテストでは、並べ替えの問題や英作文の問題が必ずありますよね？

英語の並び方を知らない人は、例えばこんな間違いをします。

「 私は昨日友達とテニスをした 」

(私は) (昨日) (友達と) (テニスを) (した)  
I yesterday with friends tennis played

---

きょくたん  
極端な例ですが、日本語の順番にあわせて単語を並べてしまうのです。

では、最初に第1部の復習から始めましょう。

**最初がS主語(～は、～が)**

**次がV動詞(～する、～である、いる)**

でしたね？

忘れていた人は声に出して5回読んでください。

覚えましたか？

覚えたら、次へすすみましょう！

SとVがもっとも大切ですから、見分けられるようにします。

問題 次の英文のS・Vはどれですか？

(例1) I <sup>ラン</sup>run.

(例2) Yuki <sup>スピークス</sup>speaks.

(例3) Mr. Tanaka <sup>ティーチ</sup>teaches.

(例4) He is.

解答

(1) I run.

S V

私は走る

(2) Yuki speaks.

S V

ユキは話す

(3) Mr. Tanaka teaches.

S V

田中さんは教える

(4) He is.

S V

彼は～である。

S Vの順になっていますね？

疑問文(たずねる文)や文の最初に接続詞(中2の when if because など)が見つからない限り(命令文は除く)英語はSVの順番で並びます。

**最初は S ( ~は ) がきて、次は V ( ~する 、~である、いる )。**

SV……これを第1文型といいます。(〇〇文型というのは覚えなくてもいいです)

次へ進みます。

あなたの友達が言ったとします。

友達: I run .  
私は走る

あなたは何と聞きかえしますか？

「いつ?」「どこで?」 と聞き返しますよね？

I run / in the park.  
私は走る 公園で

in the park という飾りがつきました。

公園で? ふ～ん、で「いつ」?

I run / in the park / every morning.  
私は走る 公園で 毎朝

だんだん詳しくなってきましたが、最初の I run は変わりません。

**最初にSVがきて、**

「いつ」「どこで」「誰と」「どんなふうに」などは、うしろに飾りとしてくっつけます。

in the park I run every morning

公園で、私は走る、毎朝

これでもなんとなくOKな気がしますが、テストでは×です。

次に、友達が言いました。

友達: Yuki <sup>スタディーズ</sup> studies

S V

ユキは勉強するの

さて、今度は何とツッコミを入れてやりますか？

(「いつ・どこで・どれくらい」などは後ろのほうですから、それ以外を考えてください)

「何を勉強すんの？」ですね？

Yuki studies / English.

S V O

ユキは勉強する/ 英語を

はい、新しいのが出ました。

Vのあとは、「何を」がくつつく場合が多いです。

この「何を」のことを<sup>オ</sup>もくてきご (目的語……できれば用語も覚えます)といいます。

最初は必ず S・V でしたね？

S・V がわかったら、そのすぐあとに「何<sup>オ</sup>」がないかな？と探しましょう。



確認してみます。

(例) I play  
私はする (つっこみ)何を?  
S V

I play / baseball.  
私はする/ 野球を  
S V O Oがくっつきました。

(例) I like  
私は好む 何を?  
S V

I like / dogs.  
私は好む/ 犬を  
S V O Oがくっつきました。

(例) My mother watches  
私の母は 見る 何を?  
S V

My mother watches/ TV  
私の母は見る / テレビを  
S V O Oがくっつきました。

さらに詳しくしていくと……

My mother watches / TV / in the park / every day.  
私の母は見る / テレビを/ 公園で/ 毎日  
S V O そのほか そのほか

「公園でテレビ」はありえませんがね……。

SVOがきて、そのあとに「いつ・どこで」の順番になることはわかると思います。

**S「～は」 V「～する」 O「～を」の順番です。**

では、あなたの手元にある教科書で確認してみましようか。

(教科書にも<sup>ちよさくけん</sup>著作権があり同じ文はのせられないので、わざとミスしてあります。)

ホライズン 1年 6-1

She lives / in Canad.

S V / そのほか

彼女は住む/ カナダに → 彼女はカナダに住んでいる

She likes / Japan / very muc.

S V / O / そのほか

彼女は好む/日本を/ とても → 彼女は日本がとても好き。

Her husband Kota / teaches / Japanese.

S / V / O

彼女の夫のコータは/ 教える / 日本語を → 彼女の夫のコータは日本語を教えます

確認しますね。

**最初にS「～は」、次がV「～する」そしてO「～を」の順番ですよ。**

SVO……これを第3文型と呼んでいます。

疲れていませんか？ 疲れたら休憩<sup>きゆうけい</sup>いれてね。

まだ大丈夫な人は、次へ進みますよ。

友達: Mr. Tanaka teaches.

S V

田中さんは 教えるんだ。

また、ツッコミをいれましょう。

今度は「～を、いつ・どこで・どれくらい」などはツッコめないものとします。

どうでしょうか？

「誰に？」ですね。

Mr. Tanaka teaches / me

S V o

田中さんは教える / 私に

はい、少し中途半端ちゅうとはんぱな文ですよ。

「何を？」も、くっつけてみましょう。

Mr. Tanaka teaches / me / English

S V o o

田中さんは教える / 私に / 英語を = 田中さんは私に英語を教える

( 中2内容です。中1の人は中2で出てくるぞ！と覚えておきましょう。)

はい、整理しておきましょう。

「誰に？」もO(目的語)であり、「～に」があてはまります。

これは「何を」のOの前におき、「誰に・何を」の順番で並べます。

(3)では例として、teach(教える)をあげましたが、他に

give(あげる), tell(話す), make(作る), show(見せる)などがあります。

例文をあげておきますよ。

I will give / you / this book.

S V o o

私はあげましょう / あなたに / この本を = 私はあなたにこの本をあげましょう。

My father showed / my sister / his pictures.

S V o o

私の父は見せた / 私の妹に / 彼の写真を = 私の父は妹に彼の写真を見せた。

She made / Ken / a birthday cake.

彼女は作った / ケンに / 誕生日のケーキを

= 彼女はケンに誕生日ケーキを作った。

S V o o

I will tell / you / the way to the school.

私は教えましょう / あなたに / 学校への道を

= 私はあなたに学校への道を教えます。

S V o o

本当はもっとたくさんあるのですが、中学生の教科書で出てくるのは主に

give, show, teach, tell, make などです。

これらの動詞(～する)は後ろに「誰に(人)」「何を(物・こと)」が続くので

人物動詞と覚えておきましょう。

はい、まとめです。SVOO……これを第4文型といいます。

復習 SVだけ……第1文型

SVO……第3文型

SVOO……第4文型

はい、次は第2文型です。

まだあるの？

はい、全部で5つです。

いいですか？ 5つしかないのですよ？

高校生や大学生で勉強する英語もすべてこの5つのどれかです。

単語や内容は難しくなるかもしれませんが、文の型は5つしかないのです。

例文をあげる前に文法用語を一つ覚えます。

am, is, are, **過去の** <sup>ワズ</sup> was, <sup>ワー</sup> were **を** <sup>ビーどうし</sup> be動詞**という。**

五回ほど声に出して読んでください。

覚えましたか？

(2) He is .  
S V  
彼は～です

突っ込みをいれましょう。

「彼は何？」 「彼はどうなの？」

He is / Ken.  
S V / C  
彼は～です / ケン = 彼はケンです。

He is / kind.  
S V / C  
彼は～です / 親切的な = 彼は親切です。

シー  
C・・・これを補語ほごといい、Sの名前やSの属性そくせい、性質をあらわす言葉です。

ちょっとわかりにくいと思いますので、もう一度、例をあげます。

He is / Ken.

S V / C(補語)      Ken は He の名前  
彼は～です / ケン      =      彼はケンです。

He is / kind.

S V / C(補語)      kind は He の性質。  
彼は～です / 親切せきせきな      =      彼は親切です。

He is / a baseball player.

S V / C(補語)      a baseball player は Heそのもの

はい、このように be 動詞の文はSVCの順で並びます。

うちに「誰に、何を」はくつつきません。

be 動詞の部分には become (～になる), look (～に見える)が入る文もあります。

SVC…………これを第2文型といいます。

また、be 動詞には「存在そんざいをあらわす場合」もあります。存在とは「いる、ある」です。

She is / in the classroom

S V / そのほか  
彼女はいる / 教室に      = 彼女は教室にいます。

この be 動詞の使い方も大切ですから覚えましょう。

また、be 動詞でない動詞( play, like , teach , give などを)一般動詞いっぱんどうしといいます。

いっぽんどうし 一般動詞 と be 動詞 と <sup>どうし</sup> という区別は学校では習わないかもしれません。

しかし、高校1年から「知っていて当たり前」として授業がすすみます。

中学生用の参考書には書かれていますから、知っていたほうが絶対に得です。

**be 動詞が am , is , are , was , were で、それ以外は一般動詞です。**

はい、最後の第5文型です。

これは中学生にとっては <sup>とくしゅ</sup> 特殊な文型です。

使う一般動詞も限られています。なんと、call(呼ぶ) と make(にする) だけです。

少ないですから、例文だけにしておきますね。

(5) We call / him / Hide.

S V O C  
私達は呼ぶ/彼を/ヒデと = 私達は彼をヒデと呼んでいる。

これは「call AB でAをBと呼ぶ」と覚えておけばいいでしょう。

His class made / English / easier.

S V O C  
彼の授業はした/英語を/より簡単な = 彼の授業によって英語はやさくなった。

こちらは「make AB で A を B にさせる」と覚えておけばいいでしょう。

確認です。

SVOC・・・5文型 中学生では call と make だけ。

## 5文型のまとめ

S V ～は ～する	第一文型
S V C ～は = ～	第二文型
S V O ～は ～する ～を	第三文型
S V O O ～は ～する (人)に (物)を	第四文型
S V O C ～は call(呼ぶ) ～を ～と ～は make(する) ～を ～に	第五文型

これらのほかに、V で始まる文を命令文といいます。

例えば Go. (行きなさい)

命令する相手が目の前にいるので、S(主語 ～は)は書きません。

この命令文は意外と重要で、教科書にもたくさん出てきますから覚えます。

第〇文型の数字は覚えなくてもいいですが、英語の並び方を頭に入れてくださいね。

教科書本文訳や並べ替え問題、英作文もできるようになりますよ。

長文読解もこれでラクになると思います。



## 4-2 英単語の覚え方

テスト前になって、「単語帳」を作っていませんか？

それはそれでよいのですが、別の方法もあることを覚えておいてください。

中学生の場合は、もっと効率的に覚えられる方法があります。

10個の単語を覚えるとしましょう。

sunny , take , come , over , near , village , flower , apple , ride , on

どうやって覚えていますか？

ノートに sunny sunny sunny sunny sunny .....

一つの単語をひたすら練習して

take take take.....

もっと短い時間で覚える方法があります。

sunny , take , come , over , near , village , flower , apple , ride , on

sunny , take , come , over , near , village , flower , apple , ride , on

このように練習したほうが早く覚えられます。

一つでも書けなかったら、また

sunny , take , come , over , near , village , flower , apple , ride , on

全部書いてみます。

全部書けたらOK. やってみて！

ちなみに、塾で使っている基本文・単語テストはこんな感じです。

教科書の下に書いてある「基本文」と「単語・熟語」のテストです。

左が解答

右はテスト用紙です。

現在	彼は今日忙しい。 He is busy today.	現在	彼は今日忙しい。
過去	彼はこの前の日曜日忙しかった。 He was busy last Sunday.	過去	彼はこの前の日曜日忙しかった。
疑問	彼はこの前の日曜日忙しかったですか？ Was he busy last Sunday ?	疑問	彼はこの前の日曜日忙しかったか？
答え方	はい、(彼は) 忙しかった。      いいえ、忙しく Yes, he was.                      No, he wasn't.	答え方	はい、(彼は) 忙しかった。
否定	彼はこの前の日曜日忙しくなかった。 He wasn't busy last Sunday.	否定	彼はこの前の日曜日忙しくなかった。
それぞれの	each	それぞれの	
うれしい	glad	うれしい	
重要な	important	重要な	
手紙	letter	手紙	
tournament	トーナメント	tournament	
お互い	each other	お互い	

基本文とそのページの単語、熟語をまとめて覚えています。

学校で基本文と単語テストのプリントは配られていますか？

テスト前にまとめて復習しましょう。

## 単語帳を作るなら

単語帳をつくってヒマな時間に覚えたいなら、<sup>めいし</sup>名刺サイズのカードにしましょう。

なぜか？

英語第1部に書いたように、英語は言葉です。

言葉は文章の中で使われるのがふつうだし、単語一つひとつをそれだけで使う場面はほとんどありません。

単語をひとつずつに分けてバラバラに覚えるのは無理があり、実は<sup>ふしぜん</sup>不自然なのです。

だから、単語帳ではなく、「文章帳」を作りましょう。

「文象帳」は基本文を覚えるときも、とても効果があります。

表

日本語 →

私は 友達（と）（学校）へ行く

英語順を入れて →

**英語順 私は 行く / 学校へ / 友達と**

ウラ

I go / to school / with my friend.

声に出しながら覚えると、もっと効果的ですよ。

このカードなら文型（英語順）と単語がいつべんに身につきます。

これなら部屋に寝転んでいても英語を覚えられますね？

## 90点以上を目指すきみへ

もしあなたが80点以上を取りたいのなら、文章カードを教科書の本文すべてでやってください。

そうです。教科書の本文をすべて書けるようにするのがです。

量がありますからカードではなく、ノートにやります。

例えば2年生の教科書(著作権の関係で一部変えてあります)

Ken: 最初、僕はたこやきが好きではなかった。

---

Kumi: なぜ?

---

Ken: えっと、ブラジルで私達がたこを料理するとき、私達はたいてい塩を使わない。

---

本文の日本語訳をノートに書いて、それを英文にできるかどうかやってみます。

難しい?

最初は少し大変かもしれませんが、SV SVC SVO にそって英語を並べていくことがわかれば、そんなに難しくありません。

やってみれば、英語の語順も確認できて一石二鳥ですよ。

単語練習もかねていますから、80点取れるようになったらチャレンジしてみてください!

### 4-3 発展編 英語長文の読み方

「/(スラッシュ)」読みといいます。知っている人もいるかもしれませんがね。

英文の意味のまとまりごとに「/」を入れて、英語を頭から訳す方法です。

「頭から」というのは英文の最初から訳すという意味です。

(例) 次の文を訳してください。

Many people must learn how to fish because they don't have enough food to eat

※ fish 釣りをする      enough 十分な

これを頭から訳します。

全体の意味を考えるのではなく、頭から訳し、つなげていきます。

< 最初に書いてあるのが「S主語(～は)」でしたね? >

Many people  
多くの人々は

< Sの後ろは「V動詞」です >

Many people must learn /  
多くの人々は学ばねばならない

< Vの次はO(～に、～を)がないか探します >  
「何を」学ばねばならないか?

Many people must learn / how to fish /  
多くの人々は学ばねばならない/ 釣り方を

Many people must learn / how to fish / because

なぜなら      < なぜでしょう? >

Many people must learn / how to fish / because / they don't have/

なぜなら / 彼らもっていないから <何を? >

Many people must learn how to fish /because /they don't have/ enough food /  
なぜなら/ 彼らはもっていないから/十分な食べ物を

### <どんな食べ物？>

Many people must learn how to fish / because/ they don't have /enough food /to eat  
なぜなら/彼らはもっていない/十分な食べ物を/食べるための

こんな感じですよ。

まとめてみましょう。

Many people must learn/how to fish/ because/ they don't have /enough food /to eat  
多くの人々は学ばねばならない/釣り方を/なぜなら/彼らはもっていない/十分な食物を/食べるための

多くの人々は魚の釣り方を学ばねばならない、なぜなら十分な(食べるための)食料  
を持っていないから。

英文全体を見て「う～ん・・・」と考えるよりも、文の頭から訳すほうが正確です。

文の最初はS主語(～は)で、次がV動詞(～する など)ですから、そこに意識を集中  
させましょう。

それをやらずに、なんとなく<sup>ふんいき</sup>雰囲気だけで訳そうとすると

つり方を学ぶ多くの人々は・・・持っていない食べ物を食べるために・・・などと、

わけのわからない日本語になってしまいます。

では、どこでスラッシュ(/)を入れるかが問題ですが、適当でいいです。

「意味のかたまりはここまでかな？」と考えた場所でスラッシュをいれてみてください。

そのうち慣<sup>な</sup>れて、どこで区切るかわかるようになります。

大事なので繰り返します。

**頭から訳す。最初に書いてあるのがS主語。次がV動詞。**

長文の問題集を買うときは、必ず「全訳<sup>ぜんやく</sup>」がのっているものを買きましょう。

スラッシュの入った全訳があると最高です。

頑張っているきみに一冊紹介しておきますね。



富士教育 「英語長文はこう読む」 ポケットサイズです。  
基本文の復習から始められます。

★ 問題集は自分の気に入ったものを買えばいいですよ。  
大型書店で自分の目でチェックして。

※ 参考書・問題集の選び方は次のページへ。

## 5、参考書・問題集の選び方

参考書ですが、必ずしも必要なものではありません。

基本は教科書です。

教科書の内容をもっと詳しくしたものが参考書ですから、もっと知りたい人は

参考書を買えばよいと思います。

### 参考書を買うなら、どう選べばいい？

#### 1、理科は写真や図が豊富なものがよい。

理科は実験図やグラフ、写真が多く出題される科目。  
言葉だけでなく、目で見ることによって覚えやすくなります。

#### 2、社会も同じく写真が多いものがよい。参考書はなくとも用語集はほしい。

3年社会(公民)の用語は難しいものが多く、用語集がほしい。

写真や人物画、統計資料とうけいしりょうでの出題も多いので、参考書はあってもよい。  
(学校の資料集があればそれで足りるかもしれません。)

#### 3、ほかの科目は(中学生は)なくてもよい。

参考書を買って勉強したような気持ちにならないでほしい。

きみが70点を目指しているなら、学校の教科書の問題とワークをバッチリできるようにするのが先です。

第1部で紹介した学習法が身につについて、もっと点数を取りたいと思ったら書店の参考書や問題集を買ってもいいでしょう。

あれもこれも手をつけてどれも中途半端ちゅうとはんぱというのは点数がとれないだけでなく、自信を失います。



## 6-1 読解力をつけるには

第1部では中間・期末テストの学習法を紹介しました。

ここでは実力テストや高校入試に向けての学習法を紹介します。

中間・期末テストでは学校で読んで習った文章がテストにでますが、実力テストでは、読んだことのある文章が出題される確率は低いです。

初めて読む文章の問題を解くときは、どうすればよいのでしょうか？

**一つの文章を精読しよう。** ※ 精読＝細かい部分も注意して読む

国語の点数が取れない人は、たいてい自分の解釈や勘に頼ってしまいます。

「次のア～エの中から選びなさい」という選択問題であれば、

< なんとなく、これっぽいな～ >と考える答えを選んでしまいます。

国語では自分の感じ方は横においておきます。

< 私はこう感じる、僕はこう思う > は考えません。

「僕はこう考えるけど・・・」は心の中にしまっておきます。

もう少し詳しく書きます。

とくに随筆(新聞の投稿のような文)や説明文(新聞記事や社説のような文)では、自分の考え方を入らせてはいけません。

国語と英語長文問題の最初に何と書いてあるか思い出してください。

次の文章を読んであとの各問に答えなさい。

必ずそう書いてありますね？

これは、文章中に答えそのものやヒントがあるということを意味しています。

ほとんどの問題は、文章の中の主張部分<sup>しゅちよう</sup>をそのまま書くか、いくつかの文を切って張り合わせるなどすれば正解<sup>みちび</sup>を導き出せます。

ですから、問題を解いたら、答えが本文中のどこに書いてあったか線を引いてみてください。

「ここに、こう書いてあるから……」本文に線を入れてみてください。

正解しなくてもいいので答えの根拠<sup>こんきよ</sup>を示してください。

どれだけ時間がかかってもいいので、理由もなしに答えを書かないようにします。

選択問題も、感性やなんとなく正解っぽいというだけで答えを選ばないようにします。

逆に言えば、本文に書いてない選択肢<sup>せんたくし</sup>は✓して消せばいいのです。

自分なりの根拠をもって問題を解いたら、答え合わせをします。

自分なりに本文中の根拠を示して書いたけれど間違っていた場合は、解説<sup>じゅくどく</sup>を熟読します。

それがまともな問題集であれば、どうしてそれが正解なのか書いてあります。

(もし解説がなかったら、勇気を出して学校の先生に質問します。)

繰り返します。

表現技法(擬人法・倒置法、枕詞など)は知識なので暗記するほかありませんが、

指示語(これ、それ、あれ)、抜き出し、要約などは本文に答えが書かれています。

本文のどこに答えやヒントがあるのか確認しながら解き、答え合わせでも「なぜそれが答えなのか」をはっきりさせます。

なんとなく・・・、で答えを書かないようにします。

国語の読解問題がもっとも「答えを赤ペンで書いて終わり」になりやすい単元です。

「なぜそれが答えなのか」一番わかりにくい科目です。

ですから、問題をたくさん解くよりも、一つの文章をじっくり丁寧に読み、

「文章中のどこに答えが書いてあるのか、ヒントはどの言葉か」を探りながら

問題にあたるようにしましょう。

問題集を買うなら、できるだけ解説が詳しいものにしましょう。

国語は何をしていいかわからない……

以前に読んだ文章を、解答を確認しながらもう一度読んでみる。

それだけでもいいですよ。

## 6-2 作文・小論対策

きみの住んでいる地域の高校入試は作文や小論がありますか？

あるなら、このページは読んでくださいね。

国語では「自分の答えに<sup>こんきよ</sup>根拠を示す」ということが大切だと書きました。

「根拠を示すこと」は小論文を書くときに必要になります。

小論というのは作文とちがい、何を書いても自由ではありません。

<sup>おも</sup>主に自分の考えを主張するわけですが、ただ「ああだ、こうだ」と自分の考えを述べるのではなく、自分の考えの根拠が必要になってきます。

根拠がない場合は<sup>おおはげんてん</sup>大幅減点か、<sup>きび</sup>厳しい場合は小論とみなされません(つまり0点)

例えば、「現在、外国で日本食が流行している」と書いたとすると、

「なぜそんなことがわかるのか？」を書かなければいけません。

新聞で読んだ、テレビで見た、外国人の友人が言っていた、などの根拠が必要です。

「英語の勉強は小学校から始めるべきだ」と書いたら

「なぜそう考えられるのか」を説明しなければなりません。

高校入試で小論文が出題されるなら、根拠を示すことはますます重要になってきます。

毎年行われるようになった「学力テスト」でも、<sup>ようし</sup>要旨をまとめることや

資料を見て表現する問題がとて多くなっています。

## 何をすればいい？

ようやく  
要約練習をおすすめします。

要約とは、文章の要点をまとめて短く表現することです。

筆者が言いたいことを短くまとめるわけです。

今日から始められる練習方法があります。

最初は難しい文章は避け、新聞の投書の要約から始めましょう。

投書は、地域の人が思ったことや考えたことを新聞上で発表したものです。

その人が考えたことや感じたことが、400字以内の文章で書いてあります。

きみと同じ中学生からお年寄りまで、いろんな人が意見や考えを書いています。

少しだけでも読んでみるとおもしろいですよ。

その中から自分が気に入ったものを選んで、一日一つ要約します。

政治経済や環境問題などの投書もありますが、難しいものを選ぶ必要はありません。

本当にどれでもいいです。

最初から要約するのが困難なら、ノートに写すことから始めましょう。

写したものを要約してみましょう。要点だけをまとめてみます。

最初の字数の半分以下を目標に書いてみます。

だれが採<sup>さいてん</sup>点するの？

だれでもいいです。

だれでもいいので要約を見てもらいます。

見た人が何を書いてあるか理解できればそれでいいのです。

「ここはどういう意味？」と突っ込まれたら、うまい要約になっていないのです。

※ 誰に見てもらおうか・・・本当に誰でもいいのですが、「この言葉の使い方おかしい！」  
「なんでここに＜しかし＞が入るの!？」などと指摘してくる人はやめておきましょう。

これはあくまで「人の意見を読み、まとめてみる練習」です。  
ウマイとかヘタは関係なく、書いてみることに意味があるからです。

なぜこの練習が国語力をアップさせるの？

要約するときは精読するし、ものすごく考えるからです。

## 第3部 お子さんと保護者さまのパート

勉強を頑張るには家族の方のサポートがぜひとも必要です。  
お子さんと保護者さまと一緒に読んでください

### 1. 親子でやってみよう！アフターメーション P 72

#### 2. 勉強コラム集

脳のしくみ P 76

忘却曲線 P 78

生活習慣 P 79

勉強場所 P 80

休憩 P 81

## 1. 親子でやってみよう！アファirmーション

アファirmーションとは「こうていてきせんげん肯定的宣言」という意味です。

肯定的というのは、この場合「前向きな」と考えてください。

前向きな宣言をするわけです。

できない理由をごちゃごちゃ考えるのではなく、「こうなる！」と宣言してしまいます。

人間の潜在意識せんざいいしき(心の奥にあり普段は気がつかない意識)に、「こうなる！」と呼びかけて、やる気を出す方法です。

ちなみに肯定の反対は否定ひてい。

「どうせバカだから・・・」「ぼくなんか・・・」「頑張ったって・・・」「はあ～、だめだ」

「やる気が出ない」「勉強なんて」「私には無理」「楽しくない」

これらはすべて否定語です。

人間は不思議なもので、それを口に出すと本当にそうなります。

ですから、自分の理想の姿をイメージして本当にそうなるように心に刻きざみます。

「できる、できる、できる」とイメージし、行動します。

すると「幸運」がめぐってくる場合さえあります。



## 2. さっそくアファーマーセッションしてみよう！

中間・期末2週間前にこの「アファーマー」をやってみましょう。

目標点ではなく、絶対5教科合計〇〇〇点取る！と宣言します。

数学〇〇点、英語〇〇点、国語〇〇点、理科〇〇点、社会〇〇点と具体的に書きます。

**大事なこと1： 取る！と断定します。**

(点数はお子さん自分で決めるのを待ってください。保護者さまはお子さんが決めた点数について絶対に何も言わないでください。)

〇〇点とりたいな～、目標〇〇点！ ではだめです。

400点とりました。ありがとう。

そんなのもアリです。

**大事なこと2： その「宣言」を紙に書き、人に言う。**

人数はなるべく多いほうがいいです。

自分ひとりで宣言するのではなく、他の人もそれを知っている状態をわざと作ります。

紙に書いたら、机の前や玄関、トイレ、リビング、いろいろなところに貼ります。

心がいつでもそれを意識するようにしておくのです。

効果が信じられませんか？

だまされたと思ってやってみて！

保護者さまもぜひご自分のアファーマーをなさってください。

**アフォーメーションをやってみよう！（例）**

**私は〇〇高校に合格します。**

あなたの名前

断定します。

**僕は中間テストで**

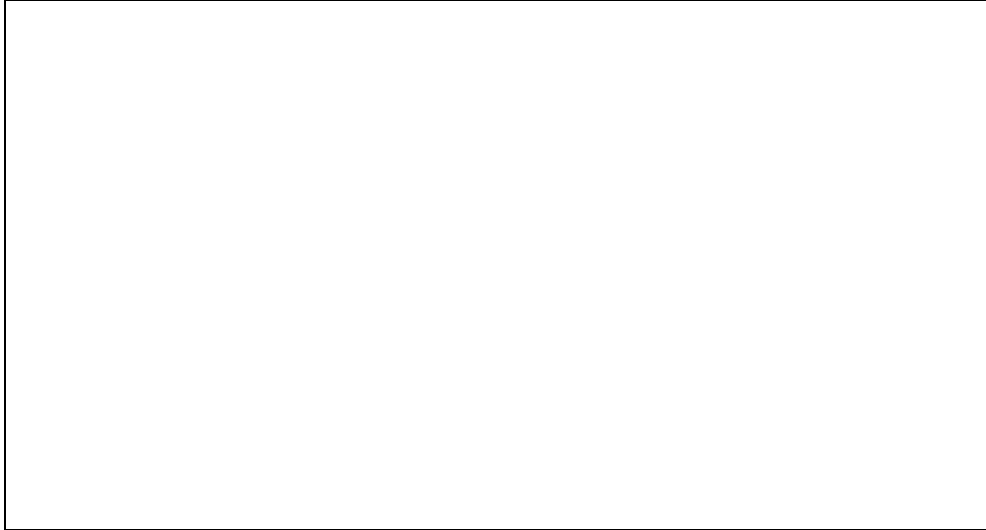
**〇〇〇点取りました。**

**感謝します。**

あなたの名前

実現したように書きます。

## きみのアフォーメーション



## 保護者さまアフォーメーション



## 2 役立つコラム集

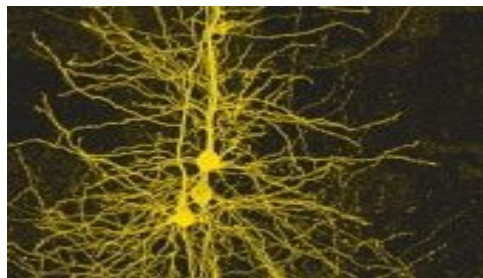
ここでは気軽に読めるコラムを集めました。  
親子で読んでいただければ何かしらヒントになると思います。

### 2-1 脳のしくみ

一度にたくさんのことを覚えられる人はいません。

ちょっと難しい話かもしれませんが、「脳の仕組み」を知っておきましょう。

脳はニューロンという神経の集まりです。



ニューロン

ニューロンはお互いにつながっていて、何かを考えたり覚えたりするとき

神経の先にあるシナプスから「電気信号」がピッと通ります。

夜、車が次々と道路を走っていくのを想像してみてください。

たくさんのライトの光が行ったり来たりします。

何かを覚えようとするときも、シナプスの中を信号が行ったり来たりします。

ところが、一回だけ見たとか一回だけ書いただけだと、その「信号が弱い」のです。

思い出そうとしても、道路が狭いのでなかなか信号が出ません。

なかなか思い出せない……。

そこで、何回も聞いたり音読したり書いたりするわけです。

反復してあげます。

その狭い道路に何回も信号を送ってあげます。

すると、信号が行き来する道路が太くなるのです！

つまり、思い出しやすくなります。

狭い道路より、太い道路のほうが行きやすいですね。

脳は何でもかんでも記憶するわけではありません。

生まれた瞬間のことから今までのすべてのことを覚えることは不可能でし、

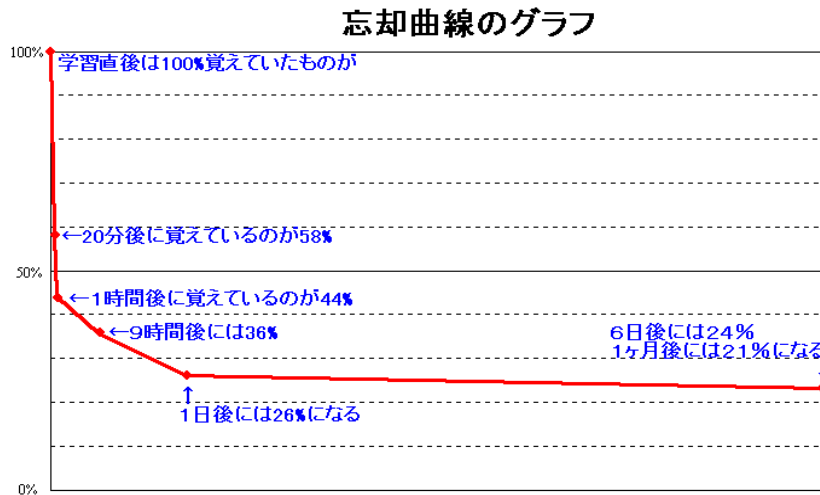
すべてを記憶していても意味がありません。

脳は「大事だ！記憶せよ！」と何回も反復されたことだけ記憶します。

**脳は反復されたことを大事だ！と判断して記憶する。**

## 2-2 忘却曲線

エビングハウスの忘却曲線です。



せっかく覚えたのに、一日後にはたった 26%しか覚えていないという悲しい現実。

がっかりですね。

だから、もしきみが「私、忘れっぽいから」と嘆いているなら大間違い。

誰でもすぐに忘れるものなのです。

これは脳みその性質なので仕方がない。

しかし、希望は残されています。そう、反復学習です。

上のグラフで覚えたものは「短期記憶」と呼ばれるものです。

短期記憶はトレーニング(反復)によって長期記憶に変わります。

反復によってグラフは緩やかになるのです(永遠に覚えているわけではないけど..)

## 2-3 根本から改善＝生活習慣を変える

ちょっとしたことでイライラしたりしていませんか？

朝起きるのが憂鬱<sup>ゆううつ</sup>だったり、いつも体がダルかったり、気力がなかったり。

もしそうだったら、ルーチンワーク(決まりきった仕事)の改善を真っ先にしましょう。

例えば、メジャーリーグのイチロー選手は昼食にカレーしか食べないそうです。

バッテリーボックスではバットを高く振り上げ、ピッチャーに向け、左手で右の袖<sup>そで</sup>をたくし上げます。目を少しだけ細め、バッテリーボックスの同じ場所で構えます。

どの打席も必ずそうします。

調子がいいときも悪いときも同じ。

それがイチロー選手のルーティンです。

心も体も健康でいるために

**早寝早起き。**

**朝ごはんを食べる。**

**テレビ・ゲーム・ケータイの3つ合わせて2時間以内**

すぐにイライラしたりする人は、この3つのどれかが乱れているものです。

当然、勉強に良い影響<sup>えいきょう</sup>はありません。

## 2-4 勉強場所

どこでもいいです。

お子さん自身の部屋で静かに集中してできればよいですが、なかなかうまくいかないかもしれません。

そんなときは、リビングか保護者さまの部屋で勉強しましょう。

リビングはお母さんが洗い物をしていたり、多少の物音はあるかもしれませんが、  
完全な静寂よりも日常の物音に囲まれているほうが集中には好ましいそうです。

(もちろんテレビは消してくださいね。)

自分の部屋にこもってしまうと、ベッドに寝転ぶ、マンガや携帯に手が伸びる、  
ぼんやりしてしまう、思い立ったように掃除を始めるなど、誘惑が多いのです。

BGMは日常の音のほか、聞き流せる音楽がよいでしょう。

日本語の歌詞だと、どうしても歌詞に意識がいきます。

昔から聞いている日本語には脳が自然に反応してしまうのです。



## 2-5 休憩

休憩にもコツがあります。

机の上うつ伏せになっていませんか？

腰を痛めやすいですから、横になって身体を伸ばしましょう。

横になって目を閉じれば、15分で身体がすっきりします。

目を閉じれば視覚を使わなくてよいので脳が休めます。

休憩といって、勉強以外のことを始める人がいますが、それは休憩になりません。

たとえばマンガや携帯に手を伸ばすと目が疲れてしまいます。

休憩は、脳を休ませる時間と考えましょう。

何か勉強以外のことをしたいなら、コーヒーや紅茶を飲むのもいいです。

コーヒーは飲んでから30分後に「<sup>ねむけ</sup>眠気覚まし」が効き始めますから

コーヒーを飲んで30分目を閉じ、勉強を再開するのが効果的です。

それから甘いものは脳が喜びます。

脳は大量の糖分を消費するからです。

アメや少量のチョコレートを食べるといいですよ。

でも食べすぎは身体に毒なので、ほどほどに。

## **第4部 保護者様のパート**

第4部は保護者様のパートです。

不躱な物言い、偉そうな表現もあるかもしれませんがどうぞご容赦ください。

### **1、 塾と家庭教師**

#### **1-1 賢い見分け方**

#### **1-2 塾の本質**

#### **1-3 マンツーマンの落とし穴**

### **2、 絶対にしてはいけない3つのこと**

### **3、 とても大切な、心のこと**

## 1-1 塾、家庭教師のかしこい見分け方・使い方

同業が言うのもおかしいですが、塾にも選び方があります。

また、家庭教師をつけるにしても注意しなければならないことがあります。

塾にはいろいろなタイプがあることはご存知のとおりです。

大手塾・個人塾・集団授業・個別指導……

大手塾なら安心感があります。

>一人ひとりをきちんと見てくれるかどうか。

個人塾だと一人ひとり手厚く指導してもらえる。

>先生と馴れ合いになりやすい。

集団指導なら、生徒が競争する。

>塾の中で落ちこぼれがでる。

家庭教師なら安全面の心配をしなくてよい。

>費用がとても高い。

これらは「一般論」ですが、どんな塾にもメリットとデメリットがあります。

どうやって選べばよいのでしょうか？

友達に「〇〇塾ってどう？」と聞いてみる。

または近所の方に「□□ゼミは～だそうよ」と評判を聞く。

「あそこの△△ちゃんは・・・塾で成績上がったんだって！」という話もあるでしょう。

「〇〇くんは□□高校に合格だって！塾はどこへ行っていたの？」

塾を検討するのであれば、ひとの話を聞くのは当たり前です。

大切なお子さん<sup>あず</sup>を預けるのですから<sup>しんちよう</sup>慎重になって当然です。

しかし、塾へ通うのは本人です。

塾へ行って勉強するのはお子さん自身です。

お子さんと、うわさで聞いた「〇〇くん」とは別人であるということを意識してください。

「うちの子にとってよいのはどんな塾か？」を考えてあげるのが先だと思います。

残念ながら、塾へ通っている100%の子供の成績が上がるとは限らないのです。

ウワサになる子供は、うわさになるほど目立っている子供がいるということだけで、そのほかにも大勢の生徒がいるのです。

「うちの子は、集団授業では質問などもしにくいだろう。少人数のほうがいい。」

「集団の中で競争したほうが、うちの子にはよさそう」

「一対一でじっくりみてもらったほうがいい」

「家から近くて通いやすいのが一番」

「夜遅くて心配だし、送り迎えもできそうになりから家庭教師かな」

「うちの子は数学だけ習いたいから単科の塾がいい」

まずは、何を最優先にするのか家族のみんなで考えてみましょう。

そして、いくつかの塾が候補にあがりましたら体験授業を受けさせることをオススメします。

入塾したあとで、「こんなはずじゃなかった！」と後悔するのは悲しいです。

教室の雰囲気はどうか(質問できそうか)。

先生はどんな人か(わかりやすく当たり前)。

宿題はどれくらい出るか(無理がない量か)

実際にお子さんがその塾と一緒に勉強してみて、お子さんが続けていけそうなら正式な入塾を検討します。

体験授業の「想像していたのとは違った」という感想は珍しくありません。

保護者さまが先導して塾を選ぶ場合も、お子さんが納得した上で入塾しないと

それが成績が伸び悩む原因になりかねません。

## 1-2 塾の本質

塾の役割は成績アップです。

そして、志望高校に合格させることです。

しかし、塾に行けば自動的に成績があがるわけではありません。

教えてもらったことも、復習して自分でできるようにならないと成績は上がりません。

そこで多くの塾は、宿題を出して知識や解法を定着させようとするわけです。

宿題がない塾も稀にありますが、その場合は單元ごとの確認テストがあって「合格しなければ追試」という形をとるなどします。

要するに、生徒が自分ひとりで問題を解くことができるように仕向けるわけです。

テストは生徒が受けるものだし、テスト中は誰も教えてくれません。

塾は自分で問題を解けるようになるために利用する、手段に過ぎないのです。

塾へ通っても、宿題をしなければ成績は上がりません。

教えてもらったことが定着しなければ、点数に結びつくことはありません。

本人が努力しなければ上がらないのです。

当たり前です。

## 1-3マンツーマンの落とし穴

家庭教師や完全個別の塾。批判するつもりはまったくありません。

私も家庭教師の経験がありますし、素晴らしい先生はいます。

一対一の指導で素晴らしい実績をあげている塾も存在します。

もしお子さんに家庭教師をつけていて成績が上がっていないとしたら、こんなケースではないでしょうか。

「一対一なので、わからない問題は、丁寧に手取り足取り教えてもらっている。」

繰り返しますが、自分で問題を解けるようになってはじめて成績は上がります。

「先生、これわかりません」

「あーこれはね。これをこうして、こうなって、こうでしょ？ ほら、できた。」

できたのは先生です。

先生の自己満足で終わってしまい、生徒はできるようになっていない。

生徒は生徒で、「説明がわかりやすい」と満足している。

「わかりやすい説明」に月謝を払っているのならそれでいいのですが、

教えてもらったあとで、生徒自身が問題を解きなおす時間があるかどうか、

ここが大切です。

## **2、保護者さまが絶対にやってはいけない、たった3つのこと**

成績面でうまくいかないご家庭には共通したことがあります。



## 1、「勉強しなさい」だけ言う

「やる気」とはどこから出るのでしょうか？ どんなときに出るのでしょうか？

仕事の場合を考えてみましょう。

上司の人に「やる気を出せ」と言われて出るのでしょうか？

ご家庭で一生懸命夕食を作ったけれど、ご主人に「美味しくない、やる気を出せ」と言われてもっと頑張ろうと思うのでしょうか？

仕事でやる気が出るのはどんなときでしょう。

上司や同僚に「〇〇さん、〇〇の件、よかったよ」と声をかけてもらえたときではありませんか？

もっと美味しい料理を作って食べさせてあげようと思えるのは、どんなときでしょう。

「お母さんの作った料理、美味しい！」と言ってもらえたときではありませんか？

すべての子供は心の奥底で勉強が出来るようになることを望んでいます。

お父さんやお母さんに褒めてもらいたいと願っています。

50点だったものが70点になったら真っ先に努力を認めてあげてください。

残りの30点に目をやって「次は80点だね！」と言わないでください。

せっかく70点を取れて頑張ったのに、叱られたように感じてしまいます。

かりに80点取っても、「次は90点」といわれるだろうと考えます。

すべての子供は褒めてほしいのです。

「なんでこんな問題もわからないの！」と叱らないでください。

最悪です。

わからない理由などないのです。

わからないから、わからないのです。

子供は萎縮してしまったら、それが潜在意識の中に記憶されてしまいます。

「どうせぼくなんか……」

そう思ってしまうのは、いつも叱られて育った子供です。

「バカ」「だめ」「失敗する」「はあ～(ため息)」「無理」「できない」

その言葉が心の奥に残ってしまいます。

ちょっとしたミスや失敗で潜在意識が表面に出てきて、弱気になってしまうのです。

子供は気がつきます。

叱られないようにするにはどうしたらいいか。

失敗しないにはどうすればいいか。

ダメと言われないようにするにはどうしたらいいか。

**何もしないのが一番だ。**

親から褒めてもらえない、認めてもらえない子供は、自分から何もしない、考えない、困難から逃げることだけを考える子供になってしまいます。

「勉強しなさい！」

この言葉は必要です。

怠けますから。

しかし、中学生ともなれば自我が芽生え、個人差こそあれ親離れの時期です。

理由もわからずに「～しなさい」と命令されることに反発します。

お父さんやお母さんは中学時代に嬉々として勉強をしていたでしょうか？

「勉強しなさい！」と頭ごなしに言われて、腹が立ちませんでしたか？

勉強そのものは面倒で苦しいものです。それはみなさんもお存知のはずです。

「勉強しなさい！」だけ言うのは、理由も告げられずに10キロ走って来い！と命令されているようなもの。

大人でも嫌ですよ。

仕事なら対価としてお金をいただきます。

では子供は？

彼らには「勉強する理由」がないのです。

大人は遠い将来のことを心配して「勉強しなさい」と言うのですが、

中学生にとって遠い将来の話は現実味がありません。

それでも、

いや、だからこそ

なぜ勉強したほうがいいのか、お父さんとお母さんが伝えてください。

「お父さんとお母さんはおまえに幸せになってほしい。そのためには勉強が必要だ」

「学歴というのは重要だ。おまえには苦勞してほしくない。」

「人生では頑張ることが大切だ。結果よりも、一生懸命やること。」

ご家庭によっていろいろな価値観があるでしょう。

繰り返しますが、こどもは「なぜ勉強したほうがいいのか」わからないのです。

大人になれば勉強の必要性は痛感させられますが、現在進行形の当人にはわからない。

ですから、お父さんお母さんの素直な気持ちを伝えてください。

一度きりのお話で本人が努力を始めるケースは稀ですが、それでも機会をみては話し続けてください。

塾の面談でも、とにかく点数にこだわって自分のお子さんを点数化してしまう方がおられます。

なぜ点数を取ってほしいのかお話されましたか？と聞くと、していないとおっしゃる。

>「お母さんが子供の頃、勉強しなさいと言われて素直に勉強しましたか？」

>「いいえ(笑)」

中学生は、理由もわからずに「ダメなものはダメ」「そんなの社会の常識」と突き放されるのを嫌います。

なぜダメなのか、なぜ常識なのか

それらを教えるのが親の役割ではないでしょうか？

## すこし離れてみる

「子は親の鏡」といいます。

まったくそのとおりだと思います。

生き生きとしていらっしゃるお母さんの子供は、元気で積極的。

グチばかり言っているお母さんの子供は、物事にマイナス思考で消極的。

なんでもかんでもプラス思考でとは言いませんが、お父さんやお母さんが自らの夢を持ち、いきいきと生活していらっしゃるお子さんは明るいものです。

お子さんは、頑張っているお父さんやお母さんの姿を見て、「自分もやってみたい」

「同じようにがんばりたい」と考えるのです。

生活の中心がお子さんになっていたり、

エネルギーがお子さんの教育(勉強)に集中しているならば、

いったん距離をおいてみてはいかがでしょうか。

いろいろ方法はあると思います。

新しいスポーツを始めてみる。

習い事をする。

資格に挑戦してみる。

エネルギーをご自身の成長に向けてみられてはいかがでしょうか。

## いっしょに頑張る

上手なお母さんだな、と思った例があります。

塾では小学生たちに「漢検って知ってる？受けてみない？」と声をかけています。

中には漢検を知らない生徒もいます。

漢字の試験だよと話すと、苦手な子は「絶対に受けない！」といます。

ある5年生の女の子も漢字アレルギーでした。

自信がなく、しかも面倒くさがります。

塾で声をかけ、すぐさまお母さんに「漢検を受けてみるよう声かけしました。お家でも受検を促してください」とメールをいれました。

するとどうでしょう。

受検してみると言い出したのです。

本人は無理せず7級を、お母さんは3級を受けるといいます。

そうです。お母さんは「お母さんもチャレンジするから、あんたも受けてみない？一緒に頑張ろう！」と声をかけてくださったのです。

お母さんも一緒にがんばる。

お子さんにとってそんなに心強いことはありません。

ネットでの合格発表。

親子で合格しました！楽勝でした～！

明るい喜びのメールが届きました。

## 2、環境が整っていない

この冊子を買われたということは、お子さんの教育に本気で立ち向かおうとしていらっしゃるのだと思います。

ですから、以下のようなことはないと思いますが一応書かせてください。

お子さんはテスト一週間前。

お父さんはビール。お母さんはテレビのお笑い番組に夢中。

それなのにお子さんには「テストでしょ！勉強しなさい！」

これはどうかと思います。

もしそうであったら、テスト前はお子さんに協力してあげてください。

## 環境・「本を読まない」ことへの対処

「うちの子は本を読まなくて……」

そう嘆くお父さんやお母さんは多いものです。

本を読まない理由は3つです。

### 1、そこに本がない。

書店の児童コーナーへ一人で行く、学校の図書館へ一人で行く。

これらは子供にとって「わざわざする」行為です。

手に取れるところ、例えばリビングや本人の部屋に本があることが大前提です。

活字だけのものがいやなら、図鑑や絵本でもいいのです。

### 2、親が本を読んでいない。

家族が本をよく読み、勉強していらっしゃるご家庭のお子さんは本が好きです。

これはスポーツだとよくある話ですね。

お父さんの草野球を見て子供が始める。

お兄ちゃんのサッカーの様子を見ていて、自分もやりたくなる。

読書も同じです。

子供は無意識のうちに親の姿を真似るものです。

お父さんやお母さんが熱心に何かを読んでいる。

なんだろう、何を読んでいるのだろう？ 自然とお子さんも本に興味をもちます。



### 3、まだ「出会い」がない

本当にいい本というのは、10冊に1冊ほどだと思います。

いい本とは、胸に残る本という意味です。

お子さんは食事を忘れるほど夢中になる本にまだ出会っていないのかもしれませんが。

感動の一冊との出会いが本の世界への入り口を開いてくれるのです。

学校の教科書に出てくる文学的文章はもちろん素晴らしく、優れている作品ばかりなのですが、それがお子さんの心の琴線に触れるかどうかはまた別の話です。

家族が集う休日に、お子さんと一緒に町の図書館に行くのはどうでしょう。

学校の図書館よりも蔵書が多いのはもちろん、バラエティに富んだ本があります。

雨降りの休日は親子で図書館。

とても豊かだと思います。

補足： 図書館で、お子さんは幼児向けの本を手取るかもしれません。

それはお子さんにとっての「入り口」ですから、よしとしましょう。

これを読みなさいと与えずに、図書館という空間を親子で楽しみましょう。

### 3、つきっきりで教えない

お母さんやお父さんがお子さんに勉強を教える。賛成です。

しかし、親子や兄弟では「熱く」なりやすいのも事実。

「あんたばかじゃない？」「どうしてわからないの？」「こんなのもわからないの？」

ついつい本人を責めるような言葉が出てしまいます。

はっきり言えば、お子さんを責めるくらいなら教えないほうがいいです。

ごめんなさい。

「もうお母さんには教えてもらわない」「お父さんはすぐ説教がはじまるからイヤ」

お子さんは内心、そう思うのです。

また、ときどき「私が一生懸命教えているのにわからない」とおっしゃる方もいます。

一生懸命教えてもできないのはなぜでしょう。

おそらく、問題を解いているのはお父さんやお母さんで、本人ではないのです。

「この問題はここにこう書いてあるでしょ？これとこれを足して、これで割るのよ？  
こうよ、ほらできた。」

説明を聞いている間、お子さんは何もしていません。

「わかった？」と聞くと「うん、わかった」と答えるでしょう。

この場合の「わかった」は、いわば条件反射です。

「わからない」と言いにくいのです。

一生懸命に説明してくれた家族に悪いから、わかったと言っておください。

または、わからないと言えば説教が始まると考えているのです。

とりあえず「わかった」といっておけば、解放されると思うのです。

ごめんなさい。

でも本当なのです。

では、お子さんが「教えて」と言ってきた場合、どうすれば本当に理解したかどうかがわかるのでしょうか。

### **家族は線路を引いてあげる**

本人に解かせるのです。

家族の役割は、お子さんが自分で解くための線路を引いてあげることです。

小学校や中学校の宿題の目的は、知識や技能の定着にあります。

よって復習が中心です。

つまり、まったく新しいことは宿題として出ません。

基本事項の反復練習か、基本の応用です。

今までに習ったことを動員して解決できることがほとんどです。

家族は問題解決の線路を引き、お子さん自信がそこを走るようになさってください。

線路の引き方を説明します。

教科書や学校ノートに問題解決のためのヒントはないか調べさせましょう。

参考書を持っていれば、該当ページを開かせましょう。

参考書の中に、同じような問題があればラッキーです。

>「教科書やノートにヒントはない？同じような問題習ってない？」

>「参考書で調べてみれば？やり方が書いてあるかもよ？」

自分で解決できるような線路を引いてあげてください。

### **教えた場合はどうすればよいか**

線路を引いてあげたけど、教科書やノートを見てもヒントがない、同じような問題も出ていない場合は、教えてあげるしかありません。

大事なものは、教えてあげたあとに、お子さんが同じ問題を何も見ずに解けるかどうかやらせることです。

家族の方は口を出さずに見てあげてください。

途中でお子さんのミスに気がついても「ほら、そこ！」などと教えないでください。

お子さんの手が止まってしまい、「助けて」のサインを出してきても無視してください。

じっと我慢です。

「わからないの？わかったって言ったでしょ？」などは禁句です。

10分間見守って何もできなければ、仕方がないのでもう一度だけ説明です。

そしてまた、答えを隠して解かせます。

ご家庭で勉強をみる場合、「お子さん自身ができるようになるまで見守る」

これが真髄です。

### 補足:家庭教師で伸びないとしたら・・・

もし家庭教師や一對一の個別指導で成績が伸びていないとしたら、原因は同じです。

先生の教えすぎ。

生徒の頼りすぎ。

生徒は先生がいないと何もしない。一人で考えられない。

学生のアルバイト講師であればなおさら、教えることが仕事だと考えています。

講師として「教えて満足」なのです。

教えてお金をもらっていると考えています。

本当に生徒のことを考えるなら、生徒が解けるようになることが目的のはずです。

## 心のこと

大人でも、頑張ったのに上手くいかなかったという経験はあるものです。

中学生の場合も人生を歩き出したばかりですから、成功よりも失敗のほうが多いかもしれません。

ここでは、上手くいかなかったときにどう対処すればいいのか、その事について書きます。

### 「ピグマリオン効果」

ある教師が担任のクラスで「これから成績が上がる生徒(実は無作為)」の名簿をつくり、クラスでその名前を発表した。

一年後に、名前を発表された生徒達の学力が本当に上がったという実験結果が出たこと。

### 「ブラシーボ効果」

ブラシーボとは偽薬のこと。

薬の成分が入っていない偽の薬を「よく効く薬」といって患者にのませると、

何らかの改善がみられるというもの。

### 「アファーマーメーション」

第3部で紹介した、自己暗示法。

「夢に日付を」で有名なワタミ社長も活用。

ビジネス界だけでなく、スポーツ界でも著名人が活用。

## 大切な心のこと

中学生は他人からの評価をととても気にしますし、自分と他人を比べて自己評価もします。

成績のよくないお子さんは、この自己評価がおそろしいほど低いです。

他人からの評価が「まあまあ」でも、自己評価は「全然ダメ」。

とにかく自信がなく、表面には出なくても「自分はだめな人間だ」と思っています。

自分は素晴らしい、できると考えることを「自己肯定感」と言いますが、

自己を肯定している子はとても少ないです。

知らず知らずの間に、自分という人間を「ダメ人間」と固定しています。

その心の中が、成績に対する考え方に深く影響し、現れてきます。

テストの目標点が五科目350点(500点満点)だったとしましょう。

現状は280点。

テストに向けて努力はするのだけど、どうしても310点で止まってしまいます。

なぜでしょう。

もっと時間を延ばせばよかった？

たくさん練習すればよかった？

授業をちゃんと聞けばよかった？



実は努力以前の問題として、心の中に問題があります。

300点で止まっているお子さんは、心の中で300点の壁を作っています。

実はテストを受ける前から「僕は300点の人間だ」と決めつけています。

350点を目指すと口で言いながら、心の奥底で「たぶん無理だ」と思っています。

信じられないかもしれませんが、本当のことです。

証拠は、テスト結果が出たときのお子さんの様子を見ればわかります。

350点であれば平均70点です。

数学が68点だったとしましょう。

お子さんの様子をご覧になってください。

ほっとしていますか？ 悔しがっていますか？

> あ～、なんとか68点とれた。 > くっそ～、70点に届かなかった、ちくしょ～！

どちらでしょう。

68点で、まあ満足なら、「見えない心の壁」があるのです。

自分の満足いく点数が68点だったわけです。

だから絶対にそれ以上にはならないわけです。

一方、80点を取っても「あ～、90点以上取りたかったのに！」と悔しがっている子。

まだ伸びます。自分は90点取れると信じているからです。

自分のレベルはこんなもんじゃない、もっと取れると信じているのです。

心に描いた理想の自分になるために、生徒は努力します。

理想の自分が68点である子は、68点でストップ。

それ以上にはならないのです。

私も思い当たることがあります。

新しい季節を迎えると、何か新しいことにチャレンジしてみようと思います。

いくつかのことを頭に思い浮かべます。

こうなれば嬉しい……もっとうごしたい……願望は尽きません。

しかし、いくつかの願望について、心の中で「これはちょっと難しいな」と思ってしまうのです。

無意識に、出来ないだろうと思っているのです。

すると、本当に出来ない。

自分で心の壁を作っています。

今の自分に「まあ、自分はこんなもんだ」と思っています。

無意識のうちに満足している人は、そこでストップ。

子供と同じです。

理想の自分が100点なら、90点を取っても満足せずに努力を続けます。

400点以上取る子は、自分は400点取れると思っています。

## 親は何ができるか

日本人の性でしょうか。

懇談会を開くと、保護者の方は自分のお子さんのことを謙虚にお話されます。

お子さんのことを褒めると「家ではそんな様子はありませんよ」などとおっしゃる。

うちの子、全然ダメです。

まったく誰に似たのか。

もう、どうしようもない子で。

自分のお子さんのことを他人の前では決してよく言わない。(私もですが……)

我が子のことを良く言うのは、独特の羞恥心といいますか、ありますね。

もちろん心の中ではわが子を愛してやまないのですが、表には出しません。

もっとストレートに愛情表現をしてもいいのかと思いますが、どうしていいかわからない。

かといって、人前で「うちの子、最高です！」などと言えません。

ですから私は、せめて家庭ではわが子を褒めてあげたいと思います。

努力をしていたら認めてあげたいと思います。

いざという時に頼れる親でありたいがために、わが子を信じていたいと思います。

この冊子で、私は勉強方法を書きました。

勉強で苦しんでいる子供を何とかしてあげたいという想いで書きました。

本当に成績が上がった方法だけを書きましたので嘘や大袈裟はありません。

お子さんがこの方法を実践していただければ、必ず何らかの成果が出ると思います。

ただ、最初に解決すべき本当の問題はお子さんの心の改善だにご理解ください。

できると思ってもらうこと。

思い込ませること。

お父さん、お母さんが心の底からお子さんを信じること。

頑張っている姿を見たら、努力を認めること。

できたら褒めること。

一個の尊い存在として見守ること。

どうぞ、お子さんの心のブレーキを外してあげてください。

成績がよい子の保護者の方の共通する生活習慣があります。

自分の子供を褒める、励ます、認める。

懇談で、我が子の悪口をいわない。

成績が悪いときがあっても、子供を責めない。

塾に携わって15年が経ちました。

学生時代の家庭教師の経験を含めると、それ以上の年月になります。

多くのお子さん、いろいろなタイプのお子さんを見てきました。

その過程で、子供が一番喜ぶのはどんな瞬間わかりました。

成績が上がったとき？

できない問題が解けたとき？

高校に合格したとき？

違います。

お父さんやお母さんに褒められたときです。

一番身近な人に褒められると、自分は生きていていいのだと思えます。

一番身近な人に認められると、自分は価値ある存在だと思えます。

私はときどき授業でモチベーショントーク(気持ちを高める話)をします。

ある日、生徒達にこんな質問を投げかけました。

尊敬する人は？

「両親」とこたえる生徒が少なくないのです。

お子さんが困ったとき、頼るのはだれでしょう。

今はクラスの友達や部活動の仲間が相談しやすいでしょう。

しかし、大人になってから一番頼りになるのは親です。

最後に、お子さんが誠実に努力し、成果をあげ、喜ぶ姿を想像しながら、  
また、この冊子をご購入いただいたご家族に幸せが訪れることを願って。

心が変われば態度が変わる。

態度が変われば行動が変わる。

行動が変われば習慣が変わる。

習慣が変われば人格が変わる。

人格が変われば運命が変わる。

運命が変われば人生が変わる。

## メール相談について

お子さんの勉強についてのご相談を下記アドレスにて受け付けます。  
ただし、メールはお一人様一回(一往復)とします。  
また、お住まいの地域の高校入試情報などには回答できませんことをご了承ください。

尚、ご相談の際は、お子さんの学年を明記し、内容もできるだけ具体的にお願いいたします。

当塾へのメール [exceljyukupvs@gmail.com](mailto:exceljyukupvs@gmail.com)